

東京芸術祭ファーム2022 Farm-Lab Exhibition セリーナ・マギリユー演出作品 参加者（出演者）募集

〔応募締切 2022年6月27日(月)17:00（日本標準時）〕

マニラを拠点に活動するセリーナ・マギリユー演出の新作パフォーマンスの創作トライアルに参加する出演者を募集します。

Farm-Lab Exhibitionは、アジアを拠点に活動する若手アーティストが、文化、国籍やバックグラウンドがさまざまに異なるメンバーと行う創作トライアルプログラムです。今年は2つのチームが東京で滞在制作を実施します。

- セリーナ・マギリユー演出作品（日本以外のアジア拠点のアーティストが演出を担当 / 日本国内を拠点に活動する出演者を公募）
- y/n（橋本清+山崎健太）演出作品（日本拠点のアーティストが演出を担当 / 日本以外のアジアを拠点に活動する出演者を公募）

東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

助成：令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
協賛：アサヒグループジャパン株式会社



作品について

コンセプト：QUEER ASIA（クィア・アジア）

「クィア」は、アジアにとって新しい概念ではありません。英語のこの言葉が登場する以前から、地域の文脈に存在していたのです。アジアの国々は類似した植民の歴史を持ち、それぞれの経験と地域に根ざしたローカルなクィア性を共有しています。西洋の二元的な性の概念とは異なる、アジアにおけるクィアのアイデンティティを、私たちの手に取り戻す必要があります。型にはまらない存在、文化に固有の性表現、国を超えた運動、イメージやアイデア、それらの流用と氾濫……。さまざまな視点や価値観を並列させることは、人々の身体的経験としてのジェンダーやセクシュアリティの形成に、どのような影響を及ぼすのでしょうか？ 異性愛規範が明示され、強制されるなかでも、そこから逸脱し、課題を明らかにしていくための社会的・文化的プロセスとはどんなものなのでしょうか？ そのプロセスを通じて、例えば国家規模の言説や個々の行為者が特定の身体に特定の意味を付与しようと働きかけようとも、多様で変幻自在な性的主体性を、どのように表出させられるのでしょうか。

アジア全域において、民族、人種、階級、ジェンダー、宗教、国籍、移民など、さまざまな要素が織り合わさった問題の裏で、疎外された性的主体が形成され、存在しています。こうした問題を通じて、規範に盲目的に従わないジェンダーやセクシュアリティのあり方を表現する必要があります。なぜなら、強固なクィア性が顕在している地域もあるとはいえ、権威・独裁主義的思考も危険な盛り上がりを見せており、私たちのような存在が抹消や抑圧の危機に晒されているからです。こういった構造を認識し、明らかにすることで、単なる抽象的な概念としてではなく、クィアたちの生ける現実を理解し、検証するために必要な空間や身体的重要性を訴えていくのです。個々の土地におけるクィア性の表現に傾注することで私たちが目指すのは、自らの正当な存在と豊かな経験の獲得であり、その試みは、本プロジェクトを超えたさらなる地域同士の対話をも促すものになるはずです。

セリーナ・マギリユー

■ クリエーションについて

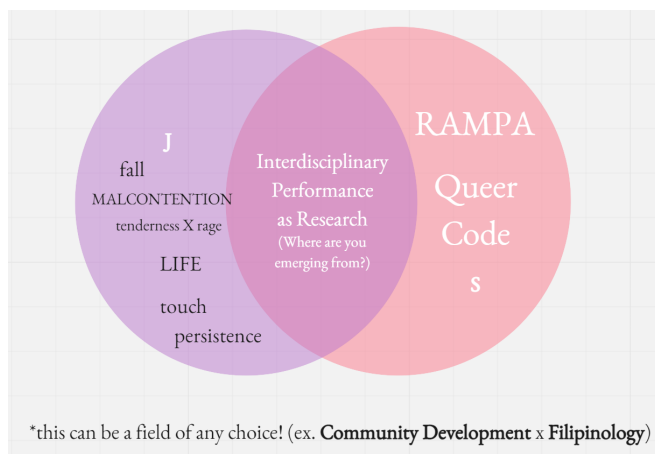
このプロジェクトは、皆さんと協働しながら、参加者自身の語りを取り入れたドキュメンタリー演劇的手法を用いて作品を考案・制作していく予定です。参加者の実体験が、作品のテーマおよび「クィア・アジア」というコンセプトの探求において、核心的な部分を担います。

セリーナ・マグリュー演出作品の過去のクリエイションの様子

セリーナ・マグリューとジャー・タビリンの共同作品『Spill the T』(2021)

(Research Institute for the Mapping of Barely Perceptible Lightにて1週間の滞在制作を実施)

▽ オンライン上の創作プロセス：創作のためのベン図



▽ パフォーマンスの様子

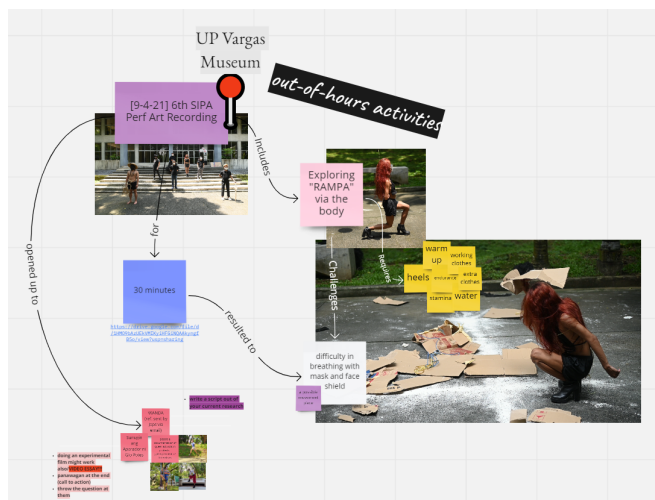


Photo by Gio Potes

『RAMP+RAGE=RAMPAGE』(2021)

▽ オンライン上の創作プロセス：

東京芸術祭ファーム2021 Asian Performing Arts Camp で
発表したワークインプログレス「RAMPA」の振り返り



▽ 6th Solidarity in Performance Art Festivalでの

パフォーマンス『RAMP+RAGE=RAMPAGE』の様子



Photo by Wedgie Baluyot

■ 演出より

新進のアーティストとして、今年度の東京芸術祭ファームに参加できることをとても光栄に、嬉しく思っています。さまざまな背景やジェンダーを持つアジアのアーティスト、アクティビスト、研究者たちと互いに学び、協働するのを楽しみにしています。トランスおよびクィアとしての私たちの存在と経験は、自己に「成る」ための継続的なプロセスであり、自分であるために不可欠な身体的変容を現代的な方法で行うなど、常に身体を超えようとする試みです。そして長い歴史のなかでは、私たちのような人間を祝福したり崇めたりしていた文化も多くあるということを忘れてはなりません。今こそ手を取りあい、現状に対する疑問や未来に対する展望を考察し、古来より存在する私たちのアイデンティティの現代的政治性を、共に明らかにしていきませんか。今まさに直面している困難に立ち向かい、私たちの真実を燃料にして、コミュニティを育ていきましょう！ 同調や適合を拒絶し、トランスジェンダーを前提としたシステムが振りかざす異種性への思い込みに適合するのではなく、検証の眼差しを向け続けましょう！ なぜならクィア性は、文化的概念であるだけでなく、政治的でもあるのだから！



Photo: Gatch Chan

セリーナ・マギリュー Serena MAGILIW

マニラ（フィリピン）

1998年生まれ。トランスピナイ※の俳優、パフォーマンスアーティスト、アクティビスト。フィリピン工科大学でフィリピン学を専攻中。領域横断的、メディア超越的なストーリーテリングを通してトランスジェンダーのナラティブを提示することで、各種の"シス"テムから自己を解放する深淵さへと観客を誘う。また、Concerned Artists of the Philippines に所属。さまざまな領域から集ったアーティスト、ミュージシャン、作家、映画製作者や文化従事者たちと共に、国民中心、人間中心の文化芸術の構築を目指している。東京芸術祭ファーム2021 Asian Performing Arts Campに参加。

※ピナイは「フィリピン人」の意。フィリピンにルーツを持つ人が、自ら称して用いる。「ピナイ」「ピノイ」がそれぞれ、同じ名詞の女性形、男性形である。

Farm-Lab Exhibition プログラム実施概要 — 一人ではたどり着けない場所へ

東京芸術祭ファームのプログラムのひとつ「Farm-Lab Exhibition」は、アジアを拠点に活動する若手アーティストが、文化、国籍やバックグラウンドがさまざまに異なるメンバーとクリエーションを行い、東京芸術祭やアジア各地での上演を目指したワークインプログレスを発表する創作トライアルプログラムです。今年はマニラ（フィリピン）を拠点に活動するセリーナ・マギリュー（東京芸術祭ファーム2021 Asian Performing Arts Camp 参加者）と、日本を拠点に活動するy/n（演出家・俳優の橋本清と批評家・ドラマツルクの山崎健太によるユニット）がそれぞれ演出を担当する2チームによる創作を行います。また、メンターとして、ダンスドラマツルクとして国内外で活躍する中島那奈子と、東京芸術祭ファーム共同ディレクターを務めるドラマツルクの長島確が創作をサポートします。

8月上旬よりオンラインクリエーション、9月下旬から東京で約10日間の滞在制作、10月上旬に東京芸術劇場アトリエイースト、アトリエウエスト（予定）にてパフォーマンス試作発表を一般公開し、観客からのフィードバックを受け、作品やアーティスト自身のステップアップを目指します。

※本募集要項はセリーナ・マギリュー演出作品の募集要項です。

■ 実施日程

期間：2022年8月4日(木)～10月10日(月・祝) ※以下は、全て日本標準時

● Farm-Lab Exhibition 活動日程

	場所	日程
顔合わせ	オンライン (使用ツール：Zoom)	8月4日(木)16:00～18:00
オンライン稽古		8月17日(水)14:00～17:00 8月24日(水)14:00～17:00 8月31日(水)14:00～17:00 9月7日(水)14:00～17:00 9月14日(水)13:00～16:00 9月21日(水)13:00～16:00
滞在制作	水天宮ピット (東京)	9月26日(月)～10月3日(月) 時間未定
パフォーマンス試作発表 (一般公開)	東京芸術劇場アトリエイースト、 アトリエウエスト ※予定	10月4日(火)～10月9日(日) 時間未定 ※この期間にリハーサルとパフォーマンス試作 発表を実施する
ラップアップ / 修了式	東京芸術劇場アトリエイースト、 アトリエウエスト	10月10日(月・祝) 時間未定

● 東京芸術祭ファーム2022 プログラム共通 活動日程

共通レクチャー、 顔合わせ、交流会 等	オンライン	8月17日(水)18:30～21:00 8月22日(月)18:00～20:00 8月29日(月)時間未定 9月2日(金)時間未定 10月16日(日)時間未定
------------------------	-------	--

※上記の他に、東京芸術祭のプログラムの鑑賞の機会等があります。日程は参加者に後日ご案内します。

※上記、活動日程以外も、随時、Slack等で情報交換を実施します。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、実施内容に変更が生じる場合があります(例：東京での滞在制作を取り止め、オンラインでの実施に切り替える等)。東京での滞在制作が不可となった場合でも、実施内容や方法を調整の上、本プログラムは実施します。その場合にも、原則として実施日程や謝金等、参加に際しての条件の変更は行わない予定です。

■ 会場

クリエーション期間：オンライン(使用ツール：Zoom)、水天宮ピット(東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」より徒歩2分)

成果発表期間：東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト(「池袋駅」西口より徒歩2分) ※予定

■ 創作環境について

- 参加者同士のコミュニケーションは英語を使う場面が多くあります。主催者、スタッフは日本語でのコミュニケーションを必要とする者が多いため、稽古場、ミーティング等には原則として日英通訳が入ります。
- 滞在制作は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して実施します。
- 下記のメンバーが、クリエイションやコミュニケーションのサポートを行います。

プロデューサー：多田淳之介（東京芸術祭ファームディレクター）

メンター：中島那奈子、長島確（東京芸術祭ファーム共同ディレクター）

コミュニケーションデザインチーム：Art Translators Collective

制作：Farm-Lab オフィス

東京芸術祭ファーム ラボは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファームラボ ガイドライン」（https://tokyo-festival.jp/tf_farm）に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

募集概要

■ 募集内容

セリーナ・マギリューが演出を行う舞台芸術作品（創作トライアル）の出演者

■ 応募資格

次の1～9すべてにあてはまる方

1. 日本国内を拠点に活動している
2. 東京都内の稽古場・上演会場に通うことができる（交通費、宿泊費等のサポートはありません）
3. 原則として35歳以下
4. SOGIE（もしくはLGBTQIA+）の多様性のなかに生き、クィアおよび／またはトランスの一人として自身の生の経験を共有する準備と意欲のある人
（このプロジェクトは、皆さんと協働しながら、参加者自身の語りを取り入れるドキュメンタリー演劇的手法を用いて作品を考案・制作していく予定です。参加者の実体験が、作品のテーマおよび「クィア・アジア」というコンセプトの探求において、核心的な部分を担います）
5. パフォーミング・アーティスト（音楽、ダンス、演劇、パフォーマンスなど分野は不問）であり、その土地におけるトランスやクィアとしてのアイデンティティをテーマに活動した経験を持つ人
6. 全ての実施日程（p.4 参照）に参加可能
7. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる
8. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
 - Zoomのグループビデオ通話*、Slack、One Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）
*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
 - スマートフォンのみでの参加は非推奨
9. 以下の姿勢および関心を持っている
 - 英語でのコミュニケーションに積極的に参加する姿勢
 - バックグラウンドや価値観が異なる相手との対話を通じて新たな発見を得たいというモチベーション
 - 国際協働におけるコミュニケーションについて考え、実践することへの関心
 - 今後も国際的な舞台芸術の分野で活動を続ける意思

■ 謝金

10万円（交通費・税金・海外送金の場合の手数料含む）

■ サポート

- 日英通訳：オンライン稽古、滞在制作中の稽古場、スタッフとの打ち合わせ等
※Slack等でのメッセージのやり取りや、滞在制作中の稽古場以外での日常的なやり取り等、通訳が入らない場面も多くあります。
- コミュニケーションデザインチームによるサポート：多文化・多言語をまたいだ共同制作を円滑に行うため、多文化間コミュニケーションについてのレクチャーや、参加者間でのコミュニケーションのルールづくり、活動内のコミュニケーションに関する相談・対応等を行う

■ 募集人数

3名程度

■ 選考スケジュール

演出 セリーナ・マギリュー、東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介、東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確による選考を行います。

応募受付	応募締切：2022年6月27日(月) 17:00（日本標準時） ・オンラインのフォームにて受付
一次選考 書類審査	結果発表：2022年7月4日(月)までにメールにて可否を通知 ・応募時の内容をもとに選考を実施
二次選考 面接	選考実施日：2022年7月11日(月)～15日(金) ・各日14:00～18:00（日本標準時）の間で実施予定 ・オンラインにて実施（使用ツール：Zoomを予定） ・詳細は、一次選考通過者にご連絡いたします
参加者（出演者）決定	結果発表：2022年7月18日(月・祝)頃にメールにて可否を通知

※可否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ず、Farm-Lab オフィスからのメール（farm@tokyo-festival.jp）が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

応募フォーム <https://form.run/@fle2022-magiliw>

（必要事項は次ページ）

〈必要事項〉

※日本語を母語とする方は、特に指定がある設問を除き、日本語と英語の両方で回答してください（回答内容は可能な範囲で同一の情報を記入してください）。左記に該当しない場合には、英語で回答してください。

1. 氏名もしくはアーティスト名
 - 自分に対して使用してほしい代名詞 等 (he、she、they、名前 等 / 自由記述)
2. 国籍
3. 活動拠点 (都市名・国、地域名 / 複数ある方は全て)
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 連絡先住所 (日本語で回答)
7. 日中連絡のつく電話番号
8. 職業 (所属 等)
9. アーティストプロフィール (英語120ワード以内、日本語300字以内)
10. アーティスト写真 (画像形式: jpgまたはpng / データサイズ: 5MB以下)
11. ウェブサイト (あれば)
12. これまで関わった作品の動画リンク (YouTube、Vimeo等 / あれば)
 - その作品における自身の役割※必要に応じて閲覧制限を設定してください。
13. 応募動機 (英語150ワード以内、日本語400字以内)
14. あなたの周りにおけるクィアの状況や経験、コミュニティについて教えてください。あなたの存在はどのように認められ、受け入れられていますか? どんな困難があり、それにどのように向き合っていますか? (英語250ワード以内、日本語500文字以内)
15. 本プロジェクトでは「パフォーマンス試作発表」に向け、参加者の皆さんからの意見を取り入れながら協働して作品を制作していきます。あなたのパフォーマンス作品の作り方を教えてください。コンセプトを練る段階や、稽古中にあなたが取り入れたい、役に立つと思う手法やプロセスはありますか? 例としてこれまでに制作した作品を紹介しても良いです。(英語150ワード以内、日本語300文字以内)
16. 自身の英語でのコミュニケーション力 (選択式)
 - a. 簡単な自己紹介や相手との会話ができる
 - b. ある程度準備しておけば、自分の活動の内容を説明することができる
 - c. 自身の専門分野において、抽象的な概念も用いながら考えや意見を述べることができる
 - d. cをもとに、議論を発展させていくことができる
 - 上記の回答についての補足 (自由記述 / あれば)
17. オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式)

※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」(p. 5)を確認してください。
18. 参加に際して使用するネットワーク環境 (日本語のみで回答可)
19. 二次選考期間 7月11日(月)～15日(金) 各日14:00～18:00 (日本標準時) の内、審査に参加できない日時 (あれば / 日本語のみで回答可)

※日本標準時で回答してください。
20. 東京芸術祭ファームの他プログラムで応募を予定している、または応募済みのもの (あれば)

※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
21. 応募にあたっての連絡事項など (あれば / 日本語のみで回答可)

■ 留意事項

お預かりした個人情報は厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

[お問い合わせ] Farm-Lab オフィス MAIL: farm@tokyo-festival.jp TEL: 03-4213-4293 (平日10時～19時)

※記載の情報は2022(令和4)年6月1日現在のものです。内容等は変更になる場合がございます。

東京芸術祭ファーム 2022 テーマ 「都市をほぐす／Unlearning Cities」

「都市≠集い」

2022 年の東京芸術祭ファームは「都市をほぐす／Unlearning Cities」をテーマに開催します。昨年のテーマ「都市の価値／Why Cities?」での“問いかけ”から、今年は〈都市＝集い〉の価値観を捉え直す積極的な“行為”でありたいという思いを込めました。近年東京芸術祭ファームが取り組んできたオンラインを活用した国際的なプログラムの成果発表を見ても、オンラインの目的や役割が“情報や時間の共有”から“行為や体験の創出”へ変わっているのを実感します。集まらなくてもできることは今後ますます増え、これまでの価値観を手放すならば、もはや都市に集う必要は無い〈都市≠集い〉が前提なのかもしれません。それでも都市が果たせる役割は多様性の担保ではないでしょうか。受け入れる量ではなく幅によって誰もが存在し集まることができる機能には、これからの都市の可能性を感じています。

今年のプログラムでは、国際クリエイションのチームを2チームに増やしフィールドやバックグラウンドの異なるメンバーでの様々な協働の可能性にトライします。

2ヶ月にわたるオンラインアートキャンプはアジアから参加者を公募し、日本国内からは国際クリエイション現場のアシスタント・インターンや一部プログラムへのビジター参加も可能です。学生対象の教育普及プログラムにもご期待ください。そしてガイドラインに基づき、ハラスメントの防止やセーフスペース作り、舞台芸術の環境作りに取り組めます。

先の見えないまま進む 2020 年代、ならば見たい未来を自分たちで作る、東京芸術祭ファームはそのための場所です。ぜひ、お集まりください。

2022 年 6 月

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



新しい共存と協働の場へ向けて

常識（共通感覚、common sense）が大きく変わりつつあります。アートの現場に限っても、これまで当たり前だと思われていた感覚や考えが通用しなくなってきました。かつて有効だったやり方が、機能しないばかりか、害を与え始めています。それらはおそらくこれまでも無害だったわけではないのですが、なんとなく見過ごされていたのが、いまでは明らかに人を傷つけたり、何かを破壊するだけのものになっています。

こうした感覚の変化はパンデミック以前から始まっていました。それがこの 2 年半に及ぶ行動様式と価値観の根本的な「洗い直し」により明確になったのだと思います。

この 2 年半の間にわたしたちが経験してきたのは、新しいことの学習というよりも、知らぬ間にすでに身につけてしまっていたものの「脱学習」、アンインストールだったのだといえます。これまで無自覚に、無批判に、享受し行使してきたものに、いったいどんな価値があったのか／なかったのか、いったん体から抜き、解きほぐし、検証し直す時間でした。そのうえであらためて、フェアで、みなさんの幸福につながるような集団創作や協働の形を、自分たちの手でどのようにして作るのか。他者との共存と交流の象徴としての都市を、どうやって再発見・再構築するのか（する必要があるのか?）。今年のテーマ「都市をほぐす／Unlearning Cities」に、わたしはそんな期待を込めています。

東京芸術祭ファームは、社会全体の大きな変わり目にあって、従来のやり方への違和感と変化への期待をもつ人が集まって、土を耕し、種を蒔き、苗を育てるための場です。われこそはと思う人はぜひ参加してください。

2022 年 6 月

東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確



コミュニケーションデザインについて

東京芸術祭ファームでは、国や文化等の異なるメンバーが集まる国際協働の現場において、その出自や立場に関わらず参加者全員が安心して創作に挑める環境を整えるため、企画の段階からコミュニケーションデザインチームがプログラム設計に関わっています。

2022 年度コミュニケーションデザインチーム

Art Translators Collective

チーフ：田村かのこ

メンバー：山田カイル、水野響、春川ゆうき、森本優芽、植田悠

<取り組みの一部>

■東京芸術祭ファーム ラボ ガイドラインの導入、整備

差別やハラスメントなどの人権侵害の発生を防止するためのガイドラインを制定し、東京芸術祭ファーム ラボに関わるすべての人にその遵守をお願いしています。また、ガイドラインの内容は毎年見直し、より良いガイドラインの制定に努めています。

■希望するジェンダー代名詞の確認、ジェンダーアイデンティティの尊重

ミスジェンダリング*を防ぐため、昨年から募集要項には自分が使って欲しい代名詞（代名詞を希望しない場合には名前等）を記述式で書き込めるようにしています。創作期間中も、それぞれの代名詞を尊重するために、知識と意識の共有を徹底していきます。

*本人が自認するジェンダーと異なる取り扱いをする差別行為（例：見た目で性別を憶測して判断した人称代名詞や敬称を相手に用いる）

■言語やコミュニケーションの多様性を尊重したアート・トランスレーション

アジアの国々からの参加者が集まる東京芸術祭ファーム内でのコミュニケーションには、共通語として「英語」が用いられますが、土地や文化により英語のあり方も多様です。コミュニケーションデザインチームは、それぞれの話す英語を尊重し、英語が流暢な人もそうでない人も対等に話せるような環境を設計し、言語の変換にとどまらない通訳・翻訳を行います。また、文化の違い等によりコミュニケーションの取り方もさまざまです。一つの文化マナー（たとえば日本の常識）に人々を従わせるのではなく、それぞれの持ち寄る観点からこの場に必要コミュニケーションのあり方を探っていきます。

■学習機会の提供

以上の取り組み等について、参加者が事前に必要な知識をつけるためのガイダンスやレクチャー、ワークショップを実施します。

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであった APAF（Asian Performing Arts Farm）にフェスティバル/トーキョー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し 2021 年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーでさまざまなプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加、レポート執筆など、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。

東京芸術祭ファーム 2022 ページはこちら https://tokyo-festival.jp/tf_farm